

2025 年第 13 週の報告です。

今週、定点報告感染症の報告数は全体的に減少しました。一部地域で警報レベルが続いている 4 疾患—咽頭結膜熱・A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎・水痘・伝染性紅斑—は、今週も継続して警報レベルですが、**感染性胃腸炎**はすべての地域で警報レベルを下回りました。眼科定点は**流行性角結膜炎**が 3 件報告されました。基幹定点の報告はありません。

全数報告は、**結核**が 6 件、**レジオネラ症**と**侵襲性インフルエンザ菌感染症**がそれぞれ 1 件、**後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）**が 2 件、**侵襲性肺炎球菌感染症**が 4 件、**梅毒**が 3 件、**百日咳**が 15 件報告されました。

侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）は、肺炎球菌が血液・髄液などの無菌部位に侵入して菌血症や髄膜炎などを引き起こす疾患です。新型コロナウイルス感染症の流行が本格化した 2020 年以降、年間 100 件程度あった府内発生数は激減し、2021 年には約 4 分の 1 の 24 件まで減少しました。しかし、その後、2022 年 42 件、2023 年 53 件、2024 年 67 件と年々増加しており、2025 年は 3 月末時点ですでに 36 件に上っています。IPD の発症は肺炎球菌ワクチンの接種により 4 割程度予防することができます。ワクチンは主に 65 歳の方への定期接種（公費負担あり）で用いられる 23 価ワクチンと主に小児の定期接種で用いられる 20 価/15 価ワクチンがあります。20 価/15 価ワクチンは標準的には生後 2 か月から計 4 回接種することで、終生免疫が獲得できるとされています。65 歳以上の方も 20 価/15 価ワクチンを接種できますが、現時点では全額自己負担です。23 価ワクチンはリスクの高い方は 5 年ごとの追加接種を行う場合もあります（2 回目以降は全額自己負担）。詳細についてはかかりつけ医にご相談下さい。